

庄本康治(編)

最新物理療法の臨床適応

鈴木重行

(名古屋大学大学院医学系研究科)

この度、庄本康治先生の編集による『最新物理療法の臨床適応』が文光堂より出版された。本書出版のきっかけは、ご自身が序文で記載しているごとく、本邦における物理療法に関する書籍が教科書、国家試験レベルのものしかなく、臨床家が実際に物理療法を臨床適応するのに参考となる書籍がほとんどないことに日ごろより苦慮されていたことが大きく関係していると想像できる。本書は、主に臨床現場に勤務する理学療法士を対象とした内容となっており、物理療法の中でも、電気療法、超音波療法、レーザー療法に焦点を当て、筋力低下、弛緩性肩関節亜脱臼、脱神経筋、摂食・嚥下障害、痙縮、痛み、創傷、石灰沈着性腱板炎、手根管症候群、関節可動域制限など、日ごろ臨床によく遭遇する病態を対象としている。

本書の特徴の1つは、各病態に対する物理療法の効果について、基礎および臨床研究から非常に多くの論文を引用してエビデンスを提示するとともに、これらの研究成果をベースとした各病態に対する最新の治療理論、臨床的適応技術について網羅していることである。このことは執筆された先生方が物理療法を専門分野の1つとして日ごろより研鑽されている成果であ

り、読者の先生方にとっては臨床上有益な情報が満載されていると言える。

わが国では、診療報酬の関係もあり、残念ながら物理療法の最先端の知識および技術が広がらず、結果的に物理療法が理学療法の有効な治療手段として根付いていない現状の中で、本書により物理療法が様々な障害や疾患に適応され、さらには運動療法との併用効果が認識、実施されることにより、臨床における物理療法の充実を期待するものである。

また、本書では諸外国ですでに論文が発表され、本邦でも臨床応用が期待されている末梢神経電気刺激療法をはじめとして、経頭蓋直流電気刺激法、開腹術後のTENS (transcutaneous electrical nerve stimulation: 経皮的末梢神経電気刺激) や創傷に対する電気療法や超音波療法など、これまで紹介されていなかった内容を網羅していることも特徴として挙げられる。さらに、詳細な情報を望む読者に対しては、Further Readingとして、各項目に文献あるいは書籍を紹介しており、理学療法の臨床現場のみならず、学生指導や大学院生の研究にも有効活用していただきたい内容となっており、本書を活用することにより、物理療法のさらなる発展とともに、エビデンスの構築を期待するものである。

●B5判・384頁・2色刷

定価 8,400 円(8,000 円+税)

2012 年 文光堂・刊